

共通テスト 記述式導入「反対」84% 大学調査 英語民間試験にも慎重

文部科学省は27日、国公私立大の学部ごとに入試改革について尋ねたアンケートの結果を公表した。「大学入学共通テストに記述式問題を出題すべきか」との質問に肯定的な回答をしたのは15%にとどまり、否定的な回答が84%に上った。英語民間検定試験を活用することにも慎重意見が目立った。大学入試改革に関連した大規模な文科省調査は初めて。

文科省は入試改革の柱として共通テストに「記述式」と「英語民間検定試験」の導入を計画したが、批判が広がり昨年、中止となった。引き続き検討を進めており、今回の調査で大学側にも抵抗感があることが明らかになり、改革の議論に影響を与えそうだ。

調査は今年7～9月に実施。全国の大学の91%に当たる699校の約2200学部が回答した。

共通テストに記述式を出題すべきかについて「とてもそう思う」と「そう思う」が計15%。「あまりそう思わない」と「そう思わない」は計84%だった。特に国立大では6%しか肯定的な回答がなかった。

一方、各大学個別の一般入試で記述式を充実させることには59%が肯定的で、否定的な答えは40%。国立大はいずれも80%近くが肯定的だったが、私立大では52%にとどまり、私立大が記述式に慎重な姿勢がうかがえた。

英語の「読む・聞く・書く・話す」の4技能のうち「書く」「話す」の二つを問うのに民間試験を活用することについても肯定的回答は32%となり、否定的回答の67%を大きく下回った。

ただ、大学ごとの一般試験で民間試験を活用すべきだとの答えは45%に上り、「入学後に大学が独自に2技能を評価すべきか」との質問には77%が肯定的に答えた。

10月28日(水) 神戸新聞分

現場の声など どうでも良い典型的な話題です。
結果、生徒(受験生)に何を求め、何を身につけさせたいのかわからない共通テストの出題形式を、42回生の受験は準備、トレーニングを積みなければいけない。
嘆いても変わらないことを嘆いても仕方ない。日々しっかりと記述も含めた準備に取り組もう。